

野いちご (1957)

SMULTRON-STALLET
WILD STRAWBERRIES

| | |
|-------|-----------------------|
| メディア | 映画 |
| ジャンル | ドラマ |
| 製作国 | スウェーデン |
| 色彩 | B&W |
| 時間 | 90分 |
| 初公開日 | 1962/11/01 |
| 公開情報 | 東和 |
| リバイバル | 2013/07/20 [マジック・アワー] |
| | 2013/07/20 [マジック・アワー] |

【解説】

サイレント期にはハリウッドまで渡った、スウェーデン映画の基礎をなした名匠シェストレムを主演に迎えて、ベルイマンが人間の一生を深く掘り下げた詩編ともいうべき秀作。医師イサクは50年に及ぶ業績を讃えられ、名誉博士号授与に赴く前夜、自分が死ぬ夢を見る。彼は息子夫婦の運転で式場のあるルンドへ向かうが、途中、青年時代を過ごした旧宅に立ち寄り、原っぱの野いちごに、積極的な弟に奪われた婚約者サラ（アンデション）を思い出す。その後、彼がめとった妻はくだらない男と密通し、彼を傷つけたのだ。邸を発ってしばらくして、ヒッチハイクの三人組を拾うが、そのうちの一人、女学生のサラ（アンデションの二役）は昔の思い人にそっくりで、彼は思うままに過ごせなかった自らの青春を悔いる。次に乗せたのは、彼らの車と事故を起こしかけた夫婦者。しかし、その口論があまりにうるさいので降ろしてしまう。が、再びまどろむイサクの夢で、その無知と人生の空疎さをあげつらうのは、夫婦者の夫だった。イサクはそこで初めて、息子エヴァルドの嫁マリアンヌの苦悩を知る。息子もまた自分と似て厭世的で人生を楽しんでいない……。式典を終えたイサクは、例の三人組の祝いの訪問を受ける。勲章よりもそうした、人とのつながりの価値を思い知ったイサクのその夜の夢は、青春の頃に戻りサラに再会する幸福なものだった。人生が走馬灯のように、とはよく言うが、このように老いて、若き日を回想できるものなのか。そのためにも生きねばなるまいと思わせる映画です。

【クレジット】

| | | | |
|----|-----------------|--------------------|--------|
| 監督 | イングマール・ベルイマン | Ingmar Bergman | |
| 脚本 | イングマール・ベルイマン | Ingmar Bergman | |
| 撮影 | グンナール・フィッセル | Gunnar Fischer | |
| 音楽 | エリック・ノードグレン | Eric Nordgren | |
| 出演 | ヴィクトル・シェストレム | Victor Sjostrom | イーサク |
| | イングリッド・チューリン | Ingrid Thulin | マリアン |
| | グンナール・ビョルンストランド | Gunnar Bjornstrand | エーヴァルド |
| | ビビ・アンデション | Bibi Andersson | サーラ |
| | グンネル・リンドブロム | Gunnel Lindblom | |
| | マックス・フォン・シドー | Max Von Sydow | |